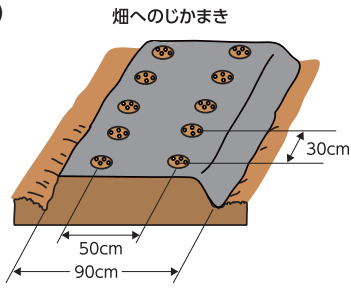
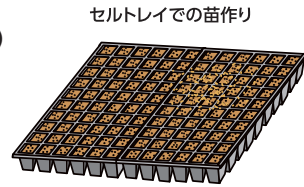


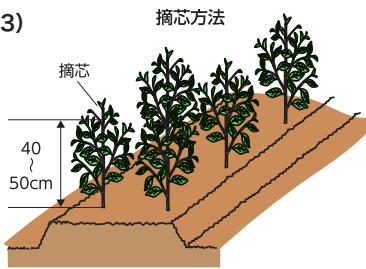
(図1)



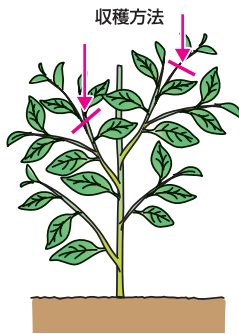
(図2)



(図3)



(図4)



モロヘイヤは、暑いほど生育が旺盛な野菜です。別名「シマツナソ」 「タイワンツナソ」とも呼ばれるアオイ科の一年生植物で、主にエジプトを中心に北アフリカ、中近東で栽培されています。

古代エジプトの王が病気になる時、医師がモロヘイヤスープを飲ませるとたちまち全快したことから、「王様の野菜」と呼ばれていたそうです。

カルシウム、β-カロテン、ビタミンBなどが豊富な野菜で、葉



を刻むと粘りが出ます。ただし、子実(さや)には有毒物質を含むため、さやの付いた茎や葉を食べてはいけません。

**【栽培期間】**  
種をじかまきする場合は、5月下旬から6月中旬に種まき、苗から育てる場合は6月上旬から7月上旬、本葉が4〜5枚になった時に定植します。収穫最盛期は7〜9月です。

**【畑の準備】**  
1㎡当たり苦土石灰100gを畑に散布し、種まきの1週間前には化成肥料(N・P・K 10・10・10%のもの)が最適) 100gと堆肥1kgを施し、幅90cmの栽培床(ベッド)を作ります。

**【種まき】**  
発芽の適温は30℃程度と高温のため、早まきしないことが重要で

す。準備した栽培床に2条、条間50cm、株間30cmとして、1カ所に4〜5粒まきます(図1)。セルトレイで苗を育てる場合は1セルあたり3〜4粒まきましよう(図2)。

**【管理】**  
間引きは2回に分けて行い、本葉4〜5枚までに1本立てにします。草丈が60〜70cmのとき、地面から40〜50cmの高さで摘芯します(図3)。

追肥は2〜3週間置きに1㎡当たり化成肥料50g程度を施用します。茎が赤みを帯びてきたら肥料不足です。

乾燥に強い作物ですが、十分に灌水した方が、より柔らかい葉を収穫できます。

**【収穫】**  
収穫方法は、側枝に2〜3節を残して、20cmくらいの先端の葉を切り取ります(図4)。盛夏には2週間置きに収穫できます。なお、花は9月ごろから開花し、10月には、さやが結実します。

■殺虫剤・殺菌剤用  
グラミンS  
アプローチBI  
スカッシュ  
クサリノー  
サーファクタントWK  
サーファクタント30

■除草剤(茎葉処理タイプ)用  
クサリノー  
サーファクタントWK  
サーファクタント30

様々な種類がありますので、お気軽に各営農センターにご相談ください。

農薬を散布しても葉や害虫に付着せず、多くが流れ落ちてしまうことがあります。

これは野菜や害虫の表面に水を弾くワックスや糸状の物質があるためです。

**そんな時に便利なのが展着剤!**  
展着剤の主成分である界面活性剤が、農薬の付着性と浸透性を高め、薬効を安定させる働きがあります。いつもの散布作業に展着剤を加えてみましょう!

なお、使用方法や農薬によって様々なタイプがあります。



**試してみよう!**  
てんちゃくぜい  
**便利な展着剤!**

**肥料・農薬のご紹介**